いしかわの遺跡

No.75
2024.03.18

大場の地で初の大型建物みつかる

低地沿いに建てられた建物の調査風景（平安～鎌倉時代）

土器片が出土した様子（奈良・平安時代）

低地からの出土品（平安～室町時代）

大場遺跡は、森下川下流の沖積平野に立地する古墳時代～中世の集落遺跡です。いしかわ特別支援学校高等部新校舎整備事業に伴い、令和４・５年度に調査を行いました。

調査では森下川や河北潟に起因する氾濫・湿地堆積層を挟んで、上下二面の生活痕跡を確認しました。特に第１面では、平安時代から鎌倉時代（11 ～ 13 世紀）の床面積が約 105 ㎡の大型掘立柱建物や、床面積約 10 ㎡の掘立柱建物、井戸などを確認しました。建物は箸や桃の種、土師器の皿などが出土した流路や湿地堆積が広がる低地沿いに建てられています。

２ヶ年にわたる本遺跡の調査で、地盤が安定し始めて沖積平野の開発が活発化した 11 世紀以降の立地環境や建物規模と集落の様子を確認することができました。

さらに、調査の結果から大場の地で土地開発が営まれた歴史が初めて明らかになりました。

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
Ishikawa Archaeological Foundation
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
E-mail:daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

いしかわの遺跡

R 5 発掘調査

倉垣遺跡〔志賀町〕

羽咋郡志賀町の南東部、安津見川左岸の丘陵から平野部にかけて立地する、弥生～平安時代の集落遺跡です。主要地方道羽咋田鶴浜線の改築工事に伴う発掘調査で、令和４年度から継続する第２次調査になります。今回は前年度調査区の北側の区域を対象に調査を実施しました。

調査区の南西部では、隅丸方形の外周溝をもつ、古墳時代の竪穴建物１棟を確認しました。外周溝が二重に巡っていることから、ほぼ同地点で建て替えが行われたと考えられます。建物内の土坑からは、土師器の甕が出土しました。このすぐ南側に位置する前年度調査区でも、同時期の竪穴建物３棟を確認しています。今回の調査によって、この建物域がさらに北側へ拡がることが判りました。

その他、近世とみられる、礫石を集めた土坑や、掘立柱建物の柱穴の一部もみつかりました。

竪穴建物（東から）

竪穴建物内土坑遺物出土状況（南から）

調査区遠景（北東から）

近世とみられる集石土坑（北から）

遺構完掘状況（垂直）

発掘調査

北陸新幹線敦賀延伸開業と埋蔵文化財調査

北陸新幹線は、全国新幹線鉄道整備法に基づき、東京－大阪間の整備計画が定められている新幹線鉄道です。これまで各区間の整備が進み、平成 27 年 3 月には金沢までつながり、さらに、令和 6 年 3 月 16 日に福井県の敦賀まで延伸開業しました。石川県の工事区間（白山車両基地以西）は、延長約 40 ㎞で、本線や駅舎整備などにかかる発掘調査は、平成 25 年度～令和 2 年度までの 8 年間に延べ 16 遺跡・約 10 万㎡を実施し、約 6 千箱の土器や木器、石器などの遺物が出土しました。

発掘調査では、新発見となる遺物の出土や重要遺構の検出など大きな成果がありました。

弥生時代中期の拠点集落として知られている小松市の八日市地方遺跡から出土した「柄付き鉄製ヤリガンナ」は、日本列島で鉄器生産が始まる以前の中国大陸から運ばれた鉄器と考えられ、柄が残るものとして東アジア最古となる可能性が高いことから、大きな話題となりました。また、国内初となる古墳時前期の青銅器の鋳造関連の炉跡が発見された加賀市八日市遺跡については、現地での保存は出来なかったものの、重要な遺構であるため、炉跡を切り取り、当センターにおいて保管・展示しております。

これまでの調査で得られた膨大な遺物の整理作業は、順次行っており、調査成果をまとめた報告書を刊行しています。すべての遺跡の作業が完了するにはもう少し時間を要しますが、これらを通して、石川県の歴史がより明らかになることが期待されます。

北陸新幹線敦賀延伸に係る発掘調査一覧表

調査年度	所在地	遺跡名	時代※	種別	調査面積(㎡)
平成25年度(2013年)	白山市	高見遺跡	弥生～中世	集落跡	1,450
		米永ナデソオ遺跡	古代	集落跡	800
		宮保B遺跡	中世	集落跡	1,700
平成27年度(2015年)	小松市	八日市地方遺跡	弥生	集落跡	1,700
平成28年度(2016年)	能美市	西任田遺跡、中ノ庄遺跡	弥生～中世	集落跡	11,340
	能美・小松市	中ノ江遺跡	弥生～中世	集落跡	14,000
	小松市	松梨遺跡	古代～中世	集落跡	1,550
		八日市地方遺跡	弥生、中世	集落跡	6,790
	加賀市	梶井衛生センター遺跡	弥生～古代	集落跡	2,540
		弓波遺跡	弥生～中世	集落跡	31,290
		弓波コマダラヒモン遺跡	弥生～中世	集落跡	1,720
		大菅波コショウズワリ遺跡	古墳～中世	集落跡	1,800
平成29年度(2017年)	小松市	松梨遺跡	弥生～古代	集落跡	3,500
		園町遺跡	弥生、中世	集落跡	1,280
		八日市地方遺跡	縄文～弥生	集落跡	1,240
		大領遺跡	縄文～近世	集落跡	1,960
		島遺跡	古墳～古代	集落跡	1,920
	加賀市	八日市遺跡	弥生～古墳	集落跡	3,290
		大菅波コショウズワリ遺跡	弥生～近世	集落跡	3,370
平成30年度(2018年)	加賀市	弓波遺跡	弥生～近世	集落跡	440
令和元年度(2019年)	能美市	西任田遺跡	弥生～中世	集落跡	1,460
	加賀市	弓波遺跡	縄文～中世	集落跡	660
令和2年度(2020年)	能美市	西任田遺跡、中ノ庄遺跡	弥生～中世	集落跡	1,150
	能美・小松市	中ノ江遺跡	弥生～中世	集落跡	3,050
	小松市	松梨遺跡	弥生～近世	集落跡	330
		島遺跡	古墳～中世	集落跡	290
	加賀市	梶井衛生センター遺跡	弥生～古代	集落跡	150
		弓波遺跡	弥生～中世	集落跡	370
		弓波コマダラヒモン遺跡	弥生～中世	集落跡	700
					101,840

※弥生：弥生時代　古墳：古墳時代　古代：奈良・平安時代　中世：鎌倉・室町時代　近世：江戸時代

小松市八日市地方遺跡

木を削ったり、刻みをいれる時に使う道具です
レプリカを常設展示中
（貴重な実物は期間限定で公開）

白山市米永ナデソオ遺跡

青銅器を鋳造するための炉跡と工房跡（竪穴建物）

埋文センターで大切に保管・展示しています

加賀市八日市遺跡

R5 古代体験

古代体験学習講座『須恵器（すえき）づくり』

10 月 22 日（日）に講座「須恵器づくり 」を開催しました。今回は、初心者から陶芸経験者まで、合わせて 14 名の方が参加しました。

講座では、最初に須恵器の歴史や作り方について説明を行い、職員による製作実演を見学した後、それぞれの作品製作に取りかかりました。

今回の講座では、石川県内各地で出土した「杯（つき）」や「長頸瓶（ちょうけいへい）」などをモデルに、復元された古代の技法を用いて体験を行いました。

一見するとシンプルで作りやすそうに見える須恵器ですが、縄文土器や弥生土器と違って、ロクロを使用するため、最初の「杯」の製作で苦戦する体験者の方も多く、「思っていたより難しい」といった声も聞こえました。しかし、ロクロ操作に慣れてくると、「長頸瓶」や「壺（つぼ）」など、皆さん思い思いの形の須恵器を作り上げていました。

今回の講座で製作した作品は、約 1 ヶ月かけて乾燥させ、「古代の文房具づくり（10 月 23 日～ 11 月 5 日実施）」の作品と合わせて、埋蔵文化財センターの「復元古窯」で焼成を行いました。焼成は例年より 1 日短い 11 月 14 日～ 11 月 16 日の 3 日間でしたが、最終日には 1,200℃を超える温度になりました。焼成の仕上げとして、大量の薪（まき）を入れた後に窯を閉じて空気を遮断し、還元状態としました。

そして、約 10 日間かけて窯を冷まし、11 月 27 日（月）に作品の窯出しを行いました。

今回焼き上げた作品は合計で 341 点で、令和 5 年 12 月 9 日（土）～令和 6 年 1 月 8 日（月・祝）の期間、当センター本館ホールで作品の展示と返却を行いました。

杯の製作

長頸瓶の製作

壺の製作

窯焚き作業

焼き上がり

展示風景

R5 古代体験

「馬形はにわ」づくり

もうじき年末を迎える 12 月 17 日（日）に、14 名の体験者を迎えて、１日講座を開催しました。

埴輪（はにわ）は、丸い筒状の形で古墳の周りなどを取り囲み、柵の役割を果たした円筒埴輪（えんとう）と、死者を送り出すために家や馬・牛・鶏・猪・魚などをかたどった形象（けいしょう）埴輪の２種類に分けられます。

講座では、古墳時代中頃に多くの装飾が施されていた「馬形はにわ」づくりに挑戦しました。

午前中に、脚を作り、その上に胴体をのせるまでの作業を行いました。空気の抜け道をつけるために棒に巻き付けて作る脚作りに苦戦しながらも、１番重要な作業工程となるため、体験者は細心の注意を払いながら取り組んでいました。

午後からは、胴体と首を作り上げ、仕上げの装飾に取りかかりました。耳やたてがみ、尻尾を作り、最後に鞍（くら）や手綱（たづな）を取り付けて完成です。もう少し時間を掛けたいとの思いを胸に納めながらも、出来上がった作品に満足し、工房を後にしました。

作り方の説明

制作風景

R5 古代体験

「弥生の玉」づくり

穏やかな冬日となりました２月４日（日）に弥生の玉づくり講座を開きました。午前中にガラス玉、午後に滑石からまが玉と管玉をそれぞれ作り、それらを合わせて首飾りに仕上げる内容でした。

人類がアクセサリー（装身具（そうしんぐ））を身に着けるようになったのは、およそ４～５万年前ともいわれています。また、ガラス玉はメソポタミアの地で４千年以上前に作られ始めました。

12 名の体験者は、玉づくりの歴史に思いを馳せながら熱心に取り組みました。溶かしたガラスを棒に巻き付ける作業や、管玉の穴あけが難しい反面、成功した際の喜びが大きかったようです。仕上がった自分の作品を満足げに見る姿が微笑ましい体験講座でした。

製作見本

まが玉・管玉づくり

ガラス玉づくり

完成！

R５情報発信

講座 考古学最前線『水中考古学～水底から歴史を探る～』

令和５年 12 月９日（土）に石川県地場産業振興センターの新館コンベンションホールにて、近年、テレビや新聞で取り上げられることが多い水中考古学をテーマに開催しました。水中考古学の伝道師と自称される國學院大學の池田榮史先生の講演では、水中考古学研究の歩みから、先生のライフワークである蒙古襲来に関する鷹島海底遺跡の沈没船発見などについて詳しいお話をきくことができました。富山県教育委員会の松井広信氏は、海揚がり品を中心に日本海側の水中遺跡を紹介していただきました。この講座内容は、YouTube の埋蔵文化財センター公式チャンネルでご視聴いただけます。

國學院大學 池田 榮史先生

富山県教育委員会 松井 広信氏

R５情報発信

令和５年度まいぶん考古学講座

まいぶん考古学講座は、職員が考古学や埋蔵文化財に関する話題や、それぞれの研究分野における最新情報、担当した発掘調査の成果などからテーマを選び、わかりやすく解説する「手づくり」の公開講座で、毎回好評を得ています。令和５年度は10～11月に３講座を開催しました。

担当する職員は、自身が高い関心をもつテーマの面白さを知っていただけるよう、当日資料やミニ展示などに、いろいろな工夫を凝らしています。受講料無料、事前申し込み不要の公開講座ですので、来年度以降の講座にお気軽に参加ください。

開催月日	題　目	講　師
10月22日（日）	「木製塔婆の造立文化～古代末の能登と加賀を中心として～」	参事 垣内　光次郎
11月５日（日）	「動物と人の関わり～動物考古学あれこれ～」	県関係調査グループ リーダー　山川　史子
11月19日（日）	「道との遭遇～加賀・能登の古代道路遺構～」	国関係調査グループ 主幹　安中　哲徳

第１回講座風景

第２回講座風景

第３回ミニ展示解説風景

センター施設めぐり

木製品保存処理室

遺跡の土の中から木製品が見つかる場合、そのほとんどが水に浸(つか)った状態です。固かった木は土の中で劣化して、大量の水を含み柔(やわ)らかくなっています。このような木製品をそのまま乾燥すると、収縮して元の形を保つことが出来ません。そのため、木製品は形を変えないままに乾燥することが必要になります。この作業を保存処理と呼びます。写真上の機械は、ポリエチレングルコール（以下PEG）含浸槽(がんしんそう)という横幅１m、長さ４m、深さ１m の大型の装置で２台あります。PEG という薬品を溶かした液に木製品を漬(つ)け込むことで、木製品内部の水と PEG を置き換えて乾燥させます。水と PEG を完全に置き換えるためには、小さな木製品は１年間、大きなものは２年以上の時間が必要です。

左の写真の機械は、真空凍結乾燥機と呼ばれています。一般的にはフリーズドライと呼ばれており、カップ麺など食品の保存に利用される方法です。筒の内部で木製品を凍らせて、真空状態にすることで、水を昇華(しょうか)させて乾燥します。木簡(もっかん)などの薄い木製品の保存処理に利用されています。

まいぶん日誌

令和５年（2023）　令和６年（2024）
11月 ～ 2月

11月

第１回ホール展「ふるさとの遺跡」
25th Anniversary

木簡年賀状づくり

「須恵器づくり」「文房具づくり」
復元古窯での作品焼成開始

「第２回まいぶん考古学講座」

「第３回まいぶん考古学講座」

12月

小学校の施設見学

「須恵器づくり」「文房具づくり」
作品展示

講座「考古学最前線」

1月

講座「馬形はにわづくり」

令和６年　能登半島地震

2月

「馬形はにわづくり」
「土偶づくり」　作品展示

講座「鏡づくり」

講座　弥生の玉づくり